

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
4月	1,144	762	742	182	7	2,837	1,044	56	239	241	124	1,175	5,716
累計	1,144	762	742	182	7	2,837	1,044	56	239	241	124	1,175	5,716

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

🔍 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

I/B6 日清及び日露戦争へ市川市域から従軍した兵士の戦死者数を知りたい。

『市川市史 第3巻』p. 207 の日清戦争の章に「市川市域から行徳の四三名・大柏村二名・八幡村四名合わせて四九名の従軍者を送り、四名の死者を出している」とあり、また、この戦死者4名の出身村・階級・氏名の記載がある。p. 208～209 日露戦争の章に「日露戦争に従軍した市川市出身の兵士は四〇一名、戦死者は四一名にのぼり」の記載がある。『市川市史 第7巻』p. 171～172 には、日露戦争のものと思われる「戦病死遺骨到着葬式執行通知」と「戦死者葬儀費収入支出計算書」が明治38年の史料として掲載されている。

I/L1 昭和30年以降の行徳や南行徳の埋め立てや、土地の補償について書かれた資料を探している。

『市勢概要 昭和50年版』（市川市議会事務局 1975）p. 235-239 に記載の「公有水面埋立事業」によると、「県の計画する「京葉臨海工業地帯開発」の一環として工業用地を造成し、以って本市の合理的な財政運営に寄与させる目的により、昭和32年に海面埋立の計画をたて、その計画に基づいて順次埋立事業を実施」とある。

第1次埋立事業から事業費内訳があり、項目の一つに漁業補償費の記載がある。埋立の工期は昭和35年12月、第1次埋立事業（二俣字新浜・原木字東片浜）（原木字西前浜・上妙典字己新開）から始まり、昭和39年第2次埋立事業（市川市儀兵衛新田字巽受湊字東浜地先公有水面）、昭和41年東浜地先埋立事業、昭和42年沖場地先埋立事業を経て、昭和44年京葉港市川地区土地造成事業で終了（昭和50年3月31日）した。

また、千葉県側の資料にも市川に係る記載がある。『千葉県新総合5か年計画』（千葉県企業庁30周年事業実行委員会 1989）p. 15-101 に「臨海地域土地造成事業」の記載があり、埋立実施後の譲渡先が掲載された地図もある。他にも『千葉県企業庁30年のあゆみ』（千葉県企業庁30周年記念事業実行委員会 1989）p. 50-54、『千葉県企業庁事業の軌跡 本編』（千葉県企業土地管理局 2017）p. 191-195、p. 209-216 等に詳しい記載がある。『千葉県企業庁事業の軌跡 別編』（千葉県企業土地管理局 2017）p. 14-103 には京葉地帯の工業地帯造成計画等の記載のほか、漁業補償の協定書、市川地区土地造成事業委託協定書なども記載されている。

910.26 井上靖の『氷壁』のモデルとなった事件について、またどうしてこの話を書こうとしたのかを知りたい。

『井上靖全集 第11巻』（新潮社 1996）p. 698、巻末の改題の中に井上自身が書いた「氷壁について」が掲載されている。出典は昭和32年10月の新潮社刊行版に付けられた、4頁のしおりに掲載の記事。その中で「この作品を書く動機は、親しい友人達数人と穂高の涸沢へ月見に行き、穂高の美しさにうたれたことと、もう一つは、東京へ帰ってからその時の一

行の一人である三笠書房の編輯長で登山家である長越茂雄君から、北アルプス前穂高岳で発生した遭難事件の話聞いたことにある。話を聞いた時、直ぐ書きたいと思った」とある。『井上靖』(小学館 1991) p. 345 に氷壁の作品ガイドがあり、「前年話題になったナイロン・ザイル事件から着想され、」とある。

その他に『井上靖』(至文堂 1996) p. 292 に「昭和 31 年 11 月 22 日付の朝日新聞には、掲載に先だって「氷の壁を軸としてそこから展開する社会小説」を念願しているといった「作者の言葉」が掲載されている」とある。

なお、ナイロン・ザイル事件とは『事故・災害』(教育社 1992) p. 483 によると、1955 年 1 月 2 日に北アルプス山系前穂高岳で起きたザイル切れで大学生が滑落死した事故のこと。従来の麻ザイルよりも強いとメーカーが保証したナイロン・ザイルだったため、“ザイル論争”に発展した。『山への挑戦』(岩波書店 1990) p. 132-135 にもこの事件の記載あり。また、この事件について書かれた『氷壁・ナイロンザイル事件の真実』(あるむ 2007) があり、(市内未所蔵) 同書(p. 9)によると、滑落死した大学生の実兄である著者の石岡繁雄氏は、長い間この事件の原因を実験で究明し、社会に訴え続けた。

📖 **G I V E U P !** ご存知の方はご教授下さい。

911.66 樋口一葉が、半井桃水との間を問われ「わるく噂もして見たい」という都々逸を引用して逃げたという記述を一葉全集で発見した。この都々逸の全文を知りたい。

上記の該当箇所は、「わるく噂もしてみたいって、あの都々逸はなかゝ穿ってるね」の一文であると思われる、『樋口一葉全集 別巻 樋口一葉研究』(新世社 1942) p. 380 に収録の三宅花圃が書いた「女文豪が活躍の面影」に記載されている。また、『宮本百合子全集 第 17 巻』(新日本出版社 2002) に収録された「婦人と文学」p. 160 の「二 清風徐に吹来つて」にも同様の記述を発見したが、上句はなかった。その他中央図書館所蔵の都々逸や歌関係資料をあたったが、見当たらなかった。

国立国会図書館にも該当する都々逸の調査を依頼したが、同館で出来る調査の範囲(原則限られており、その範囲の調査の中)では見つからなかった。

📖 他にもこんな質問ありました (クイック・レファレンスから)

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
I/C6	鬼越 2 丁目は埋蔵文化財の対象かどうか知りたい。	⇒ 『東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書 9』(東日本高速道路, 千葉県教育振興財団 2016) p. 4 に埋蔵文化財調査の地図が掲載されているが、それによると鬼越 2 丁目は該当しない。念のため、市川市考古博物館文化財担当に確認したところ、同館では埋蔵文化財調査のデータベースがあり、簡単に検索できるとのことで、鬼越 2 丁目は該当しないとの回答を得た。
767. 7	滝廉太郎作曲の「花」という歌が英語で歌われた CD を探している	⇒ 『グレッグ・アーウィンの英語で歌う、日本の童謡』(ランダムハウス講談社 2007) p. 9 に日本語の歌詞(武島羽根衣作詞)と英文に翻訳された歌詞が併記されており、英題は「Near the River in the Spring」と翻訳されている。また同書には付録 CD が付いており、3 曲目に収録されている。
913. 6	井上ひさしの文庫『手鎖心中』(文芸春秋 1981) に収録されている「江戸の夕立ち」の“桃八”のヨミを知りたい	⇒ 作品にルビはなし。Google で検索すると「江戸の夕立ち」を戯曲化した「たいこどんどん」という作品があることがわかり、『井上ひさし全芝居 その 2』(新潮社 1984) に収録された「たいこどんどん」p. 223 に桃八(モモハチ)のヨミがあった。